



TITLE:

京大広報 No. 307

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 307. 京大広報 1986, 307: 53-56

ISSUE DATE:

1986-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209375>

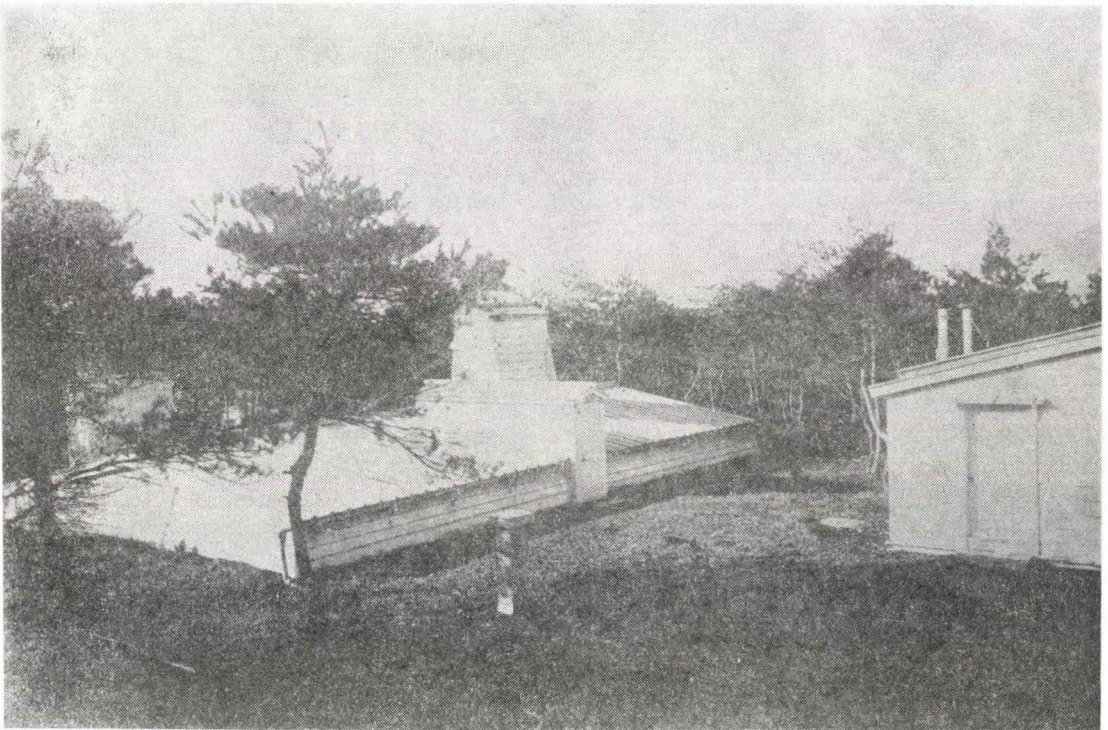
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 307

京都大学広報委員会



明治42年頃の上賀茂地学観測所—関連記事本文54ページ—

目 次

昭和61年度入学志願者状況.....54

昭和61年度医療技術短期大学部

入学志願者状況.....54

<紹介>

理学部地球物理学教室

—創始者志田 順先生—.....54

<随想>

イタリアと共に歩いた道

名誉教授 野上素一.....56

<大学の動き>

昭和61年度入学志願者状況

昭和61年度入学試験（第2次学力検査）は、3月4日（火）と5日（水）の両日に実施されるが、2月8日（土）から15日（土）まで、各学部において志願票の受付が行われた。

学部別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 部	募集人員	志願者数	倍 率
文 学 部	200人	632人	3.2
教 育 学 部	60	138	2.3
法 学 部	400	878	2.2
経 済 学 部	230	710	3.1
理 学 部	291	794	2.7
医 学 部	120	373	3.1
薬 学 部	80	148	1.9
工 学 部	995	2,027	2.0
農 学 部	310	657	2.1
計	2,686	6,357	2.4

（注）法学部と経済学部の募集人員には、外国学校出身者に対してすでに実施した選考試験の合格者15名と7名とが、それぞれ含まれ、また両学部の志願者数には、同選考試験志願者40名と12名とが、それぞれ含まれている。

昭和61年度医療技術短期大学部
入学志願者状況

昭和61年度医療技術短期大学部入学試験は、3月4日（火）と5日（水）の両日に実施されるが、入学願書の受付が2月1日（土）から8日（土）まで行われた。

学科別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	倍 率
看 護 学 科	80人	218人	2.7
衛 生 技 術 学 科	40	238	6.0
理 学 療 法 学 科	20	137	6.9
作 業 療 法 学 科	20	78	3.9
計	160	671	4.2

（医療技術短期大学部）

<紹 介>

理学部地球物理学教室

—創始者 志田 順 先生—

地球物理学教室の創始者は志田 順^{とし}先生である。地球物理学教室が物理学教室からわかれて学科として独立したのは、大正10年の4月であるが、それより12年前の明治42年6月に、京都帝国大学の第三代総長菊池大麓博士から、京都帝国大学理工科大学に助教授として赴任することが予定されていた第一高等学校教授の志田先生に宛てた一通の直筆の書翰の写しが残っている。後年、志田先生は「地球及地殻の剛性並に地震動に関する研究」によって恩賜賞を受賞され、その研究につ

いての回顧録を『東洋学芸雑誌』（第45巻、第553昭和4年5月1日）に寄稿されたが、その中でこの書翰に触れておられる。この書翰は短いものであるが、その内容は京大における地球物理学の研究の歴史を辿るのに極めて大切であるから、回顧録の一部を原文のまま紹介したい。

「思い出せば當時の總長菊池男爵から後にも先にも唯一度

『拜啓陳は下（實は上）加茂觀測所今般震災豫防調査會の方にては不用と相成候に付京大の方にて引受け將來は之を以て地球物理學研究の爲に用る度と存候へ共とかく經費の問題と成りて直に實行と申ことは六ヶ敷候へ共不取敢震災の方より地震計地動計を借用し据付候

へば宜敷と存じ大森氏に談候處何とか相成可
申趣に御座候就ては其中に大森氏に御面會此
邊の御打合相成度と存候草々』

と認められて、私にとっては誠に思出深く謂はゞ
京都の地球物理学教室の由緒書、今でも時折披い
ては過ぎ來し方を偲び、且つは指して行くへの潑
標ともして來た書面を受領したのが明治四十二
年、日附は六月十七日、東京から京都に移ったの
が九月初旬。私の自由に任された上賀茂の小さい
観測所は明治三十五年の一月一日から地球磁力の
國際同時特別観測が行はれるのを機會に、田中館
先生が特に意を注いで其目的の爲に其前年—私の
大學を卒業した年に、其時まで名古屋にあったの
を廢止して此處に新營されたものであったが、其
後八年のふる歳月に………」(註 大森氏=大森
房吉、東京帝国大学教授、地震学者で震災予防調
査会幹事。田中館先生=田中館愛橋、東京帝国大
学教授、物理学者)。本学の沿革の中で明治42.12
設置とある上賀茂地学観測所がこれである。

菊池総長の意にそって、志田先生は震災予防調
査会から借用した計器類をこの観測所に据付け、
その年の暮に地震、地殻潮汐及び気象の観測を開
始した。前述の恩賜賞は、ここで得られた観測資

料に基づく研究によって授与されたものである。
志田先生が据付けた計器類は、その後更新された
ものもあるが、これらの観測は今なお1日も欠か
さず同所で継続されている。

物理学科の中に地球物理学第一講座が設置され
たのが大正7年、同第二講座は大正10年。その年
にこの2講座をもって地球物理学が独立し、そ
の後順次講座が増設され、現在地球物理学には、
名称も変更されて地殻物理学、海洋物理学、
気象学、応用地球物理学及び地球電磁気学の五つ
の講座がおかれている。地殻物理学と応用地球物
理学の2講座は固体地球を対象とし、海洋物理学
講座と気象学講座はそれぞれ地球の水圏と気圏を
対象とし、地球電磁気学講座は地球内部及び周辺
の電磁気現象を対象としている。

地球物理学の研究は地球及びその周辺に起こる
複雑な物理現象の中に法則を見出し、その法則に
よって地球の将来を予測することを目的としてい
る。そのために、地球物理学の研究には、まず地
球の物理現象を精密に観測することが、その第一
歩として強く要求される。志田先生はとくにこの
観測を重要視され、観測の適地を求めて、温泉の
研究のために大分県の別府市に地球物理学研究施

設(大正15年)を、火山の研究のために
熊本県阿蘇山の中腹に火山研究施設(昭
和3年)を、また地震の研究のために高
槻市の阿武山に地震観測所(昭和5年)
を設立された。志田先生は昭和11年に御
他界になられたが、その後も観測所は漸
次増設されて、現在理学部には上賀茂を
含めて10個の地球物理学関係の観測所や
研究施設が設置されている。

志田先生の教訓の一つに「誤差の中に
眞理が顔を覗かせている」というのがあ
る。昨今は、観測値のばらつきはすべて
単なる偶然誤差としてこれを排除し、コ
ンピューターで処理しやすい最確値のみ
を求めて事足りりとする類の研究が、多
く見受けられるが、地球物理学を志す者
は、すべからくこの教訓を志田先生の遺
訓として肝に銘じるべきである。

(理学部)



昭和55年に竣工した地球物理学教室(1~3階)
と宇宙物理学教室(4, 5階)

